

福 井 県 医 師 会

だより

第675号 平成29年(2017)9月



夏の長城 福井市 吉村 信

表紙写真説明：夏の長城

福井市 吉村 信

20数年振りに、夏の北京・八達嶺の「万里の長城」を訪れた。以前の一車線道路は観光用に三車線に拡げられ、渋滞なく到着したが、八達嶺の手前には、巨大な門前町が形成され、シャトルバスで運ばれての長城見学となった。視界の効く展望台から100枚余り写真を撮ったが、手前の衛所から遠方の山に延々と連なる長城の威容と長大さを一枚で表現できたのはこの一枚のみであった。

夏尾根を うねる白龍 八達嶺

醫 縫 録

## 内視鏡外科手術への思いと 福井県外科医会の役割

福井県外科医会会長 藤井秀則



本年4月の福井県外科医会総会において会長を拝命いたしました福井赤十字病院の藤井秀則と申します。もとより浅学菲才の身ではございますが先生方のご指導ご協力のもと努めていきたいと思っておりますので何卒よろしくお願いたします。

武生高校出身で医師を志したものの当時も国立医学部は難関で現役での合格はかなわず浪人の末なんとか滋賀医科大学に入学し昭和60年に卒業いたしました。卒業まで大変親に心配をかけたこともあり、研修先には迷いましたが地元での医療に貢献したいと思い福井医科大学（現福井大学医学部）の第二外科に入局いたしました。

第二外科では心臓血管外科の村岡教授、消化器外科の谷川助教授の下、消化器のみならず心臓、肺を含め広く学ぶことができたことは大きな財産になっています。大学時代の研究テーマは癌の抗癌剤耐性に関するものでした。学位をとらせていただいたことで研究に興味をわき留学を希望し1995年9月から Thomas Jefferson University の Jefferson Cancer Center（現在の Kimmel Cancer Center）で Carlo M Croce 博士の下、ポストドクトラルフェローとして3年半の研究生活を送りました。研究テーマはノックアウトマウスを用いたジーンターゲットングとポジショナルクロニングを用いた癌抑制遺伝子の単離でした。当時はまだヒトゲノムの全塩基配列は分かっておらず、遺伝子を見つけるために最終的には約800kbの長さのDNA配列シーケンスを成し遂げました。残念ながら目的遺伝子の単離にはいたりませんでした。その仕事はその後のMicroRNAの研究に貢献しているそうです。

丁度そのころ日本では内視鏡外科手術黎明期で、悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術への適応拡大、手術機器の進歩など外科手術の大きな変化がありました。

帰国してからは、ライフワークはゲノムから内視鏡手術となり、知識を深め技術を磨き安全で根治性の高い体に優しい外科手術を目標に医療に従事してきました。医者になったころの初心に帰り地元の医療に貢献したいという思いを強くし現在に至っています。近年は内視鏡外科手術は単孔式とNeedlescopic Surgeryの両輪でReduced Port Surgeryというさらなる低侵襲手術、あるいはロボット支援手術など発展し続けています。

ここ20年での分子生物学の発展、外科手術でもとりわけ内視鏡外科手術の発展は両者とも相当なスピードでさらに加速しているように感じています。しかし、手術においては安全性が重要であり、近年話題にもなった腹腔鏡手術での医療事故は憂慮するものであり、県内での安全で着実な普及が重要と考えています。

現在の外科発展の中では専門性ということが重要視され、先生の専門はどこですかというような質問を受けることも多くあります。大病院では胃外科、大腸外科など外科医が臓器別にわかれスペシャリティーが重宝されているのが現実ですが、自分が経験してきた医師人生を顧みると疑問に思うこともあります。胃は専門だが大腸や胆嚢は専門ではない。まして虫垂炎やヘルニアは専門外というような外科医の存在。それに加え外科医不足の状況はこれからの福井県の医療にとって非常に危惧する問題と感じています。

平成30年からは日本専門医機構の新専門医制度がスタートする予定ですが、その目標はそれぞれの診療領域において標準的医療が提供でき、患者から信頼される医師をめざすというものです。新専門医制度のプログラムのもとの外科の現場はどうなっていくのか不透明であります。知識・技能・態度を備えた外科医の教育にも福井県外科医会が役に立てればと考えています。

さて、歴代の会長から引き継いだ課題として、一つ目は日本臨床外科学会の福井県支部として機能するということですが、林前会長によりその方向性の道筋を決めていただきましたので、さらに充実していきたいと考えています。もう一つの課題は臓器別部会が中心となっている本会の運営に診療所管理医師の意見を反映するというものであります。これも林前会長のご尽力で新たに保険診療・地域医療の幹事の先生に加わっていただいています。さらに発展充実させていければと思います。

そして大きな課題は福井県における外科医の確保があるかと思えます。ご存知のように福井県外科医会の会員数が減少している状況です。医学生や研修医に外科の魅力やロマン、醍醐味を伝え、この右肩下がりの状況を何とか少しでも上向きに変えていくのも外科医会の大きな役割の一つと思えます。

このような多くの難しい課題に直面して気が遠くなりそうですが、私一人肩に力を入れても無力であります。どうか皆様のお力、知識、知恵を拝借して少しでもこの外科医にとっての厳しい時代の問題を解決していき、会員の皆様の豊かで余裕のある外科医生活の一助になればと考えています。そうすればおのずと県民に対する優れた医療の提供につながると考えています。

繰り返しになりますが皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。